

『国際政治』206号「国際政治のなかの同盟」（仮題）

本特集号の目的は、国際政治の中で同盟が持つ意味を改めて検討することにある。同盟が古くから存在する現象であることは、国際政治にかんする最初期の著作ともいえるトゥキュディデス『ペロポネソス戦争』のなかに同盟が描かれていることから明らかである。もちろん、それ以降、現在までの間に国際政治の力学は大きく、かつ多様に変化してきた。では、その歴史的過程のなかで同盟は国際政治の展開にどのような影響を与えたのか。反対に、国際政治の展開は同盟のありようをどのように変化させたのか。そもそも、同盟とはどのような力学を持つ国際政治上の現象なのか。その力学は、歴史の過程においてどのような変化を遂げてきたのか。もし、変わっていない要素があるとすればそれは何か。本特集号はこうした論点について新たな光を当てることを目指している。そのため歴史分野の特集号ではあるが、理論的なテーマに関する論考の投稿も大いに歓迎する。

具体的なテーマを検討する際には、たとえば次のような点の一つ、ないしは複数に留意されたい（あくまでも例示である）。

- ① 特定時期の国際体制（例：18世紀の勢力均衡、ウィーン体制）や、国際紛争・戦争（例：二度の世界大戦、冷戦）の起源や展開において同盟が果たした機能や役割について明らかにするようなものであること。なお、歴史的な論文については、単なる史的事例の叙述を超えて、その事例がもつより広い歴史的・理論的なインプリケーションを提示するものを重視する。
- ② 同盟の背後に存在した、経済・社会・文化・イデオロギー的な背景や要素、それが果たした役割などを解明するようなものであること。例えば、同盟内の負担分担問題や通貨体制の変動が同盟関係に与えた影響、同盟参加国の社会による同盟の受容や同盟の正統性をめぐる問題、文化的・イデオロギー的な要素が同盟関係をどのように支えた／損なったのか、といった論点にかんするもの。
- ③ 人間の安全保障、人道的介入、強制的停戦やその維持、移民・難民の流入、サイバー・セキュリティなど、いわゆる非伝統的な安全保障概念・領域の重要性が国際政治のなかで増加したことが、同盟のありかたをどのように変質させたのか。また、そうした変化から同盟内政治の力学はどのような影響を受けているのか、といった問題の理解に資するようなものであること。
- ④ 同盟の役割や機能、同盟参加国間もしくは同盟とその仮想敵国との間で展開される政治力学などについて、新たな歴史的・理論的知見を提供するものであること。

ところで、国際政治学者のグレン・スナイダーは有名な1989年の論考の中で、「提携」

(alignment : 特定の他の諸国家との紛争もしくは戦争において、互いに支援をえることができるという二国、もしくはそれ以上の国家間での相互の期待)と、「同盟」(alliance : 「提携」が「公式の契約」となったもの) という二つの概念を提示している。本特集における同盟には、スナイダーの「提携」「同盟」の両方を含める。ただし、「通貨同盟」や「関税同盟」などは対象としないものとする。

また分析する事象については、概ね、主権国家体系の形成期となる16世紀以降、現代までのものとするが、それ以外でも、例えば、『ペロポネソス戦争』を読み直すことで同盟論を捉えなおす、といった論考であれば応募を歓迎する。

執筆をご希望の会員は、論文の仮タイトルと要旨を600～800字程度にまとめ、2020年1月31日(厳守)までに、下記の編集責任者のアドレスまでメールをお送りください。応募に当たっては、自宅と勤務先/所属先の住所、電話/FAX、メールアドレスをお知らせください。検討の上、執筆をお願いする方には、2020年3月31日までに編集責任者から連絡いたします。原稿の最終提出締め切りは2020年11月30日を予定しています。論文の分量は注を含めて2万字以内です。査読の上、最終的な掲載の可否を決定いたします。本号の刊行予定は2021年9月です。執筆要領は、以下の学会ウェブサイトをご覧ください。
<http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/documents/shippitsuyoryo.pdf>

お問い合わせ、お申し込みは下記までお願いいたします。

<編集責任者> 青野利彦

<連絡先> 〒186-8601 東京都国立市2-1 一橋大学法学研究科

TEL: 042-580-8870

FAX: 042-580-8881

E-mail: t.aono★r.hit-u.ac.jp (★を@に置き換えてください)